

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.13 ◇◆
2009年10月1日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート
ー選考と新規採択課題について
2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
今月一番注目されたコンテンツとは・・・

◆◆◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート

皆さんこんにちは！

北の方からは紅葉の便りが届き始め、季節は秋へとスライド中です。インフルエンザで医療機関を受診した人の数が20万人を超えたとの心配なニュースもありますし、季節の変わり目、体調にはお気をつけください。

変わり目と言え、何と言っても政権交代でしょう。前号では、5党のマニフェストについてレポートで取り上げましたが、犯罪からの子どもの安全に関連する施策が今後どうなるのか、皆さん、一緒に注目していきましょう。

変化ということでは、先日配信したメルマガの臨時号でもお知らせしましたように、平成21年度の新規採択課題が決定しました。これまでは、具体的な問題と解決に向けた提案を広く募集するなど、領域としての助走段階だったとも言えるかもしれません。

結果として、犯罪からの子どもの安全という問題に多様なアプローチで挑む課題が採択されたわけですが、その選考過程や代表者の顔ぶれ、選考を通して

領域担当の感じたことなどを、今号のレポートとして掲載していますので、ご覧ください。

今回で公募は終了ということで、これからは、各プロジェクトの成果創出に向けて、加速していく段階へと移っていきます。皆さん、どうぞこれからも、領域の活動に注目して下さい。

既存の各プロジェクトについては、それぞれのペースで加速していますが、先月上旬には領域会議を開催し、その中で「系統的な「防犯学習教材」研究開発・実践プロジェクト」の進捗報告会を行い、その状況と今後の進め方について議論を行いました。

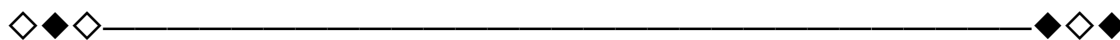
5年計画のこのプロジェクトは3年目を迎え、今年度中には、外部有識者による中間評価を受ける予定です。領域総括やアドバイザー、もちろん私たち領域担当も、共に良い成果を創出していくために、議論はとても真剣で、時には厳しいことも。現場のニーズも踏まえ、社会に役立つ成果創出に向けて、これからも努めていきたいと思えます。

また、「子どものネット遊び場の危険回避、予防システムの開発」プロジェクトが、9月13日に2009年日本社会情報学会(JSIS & JASI)合同研究大会にて「青少年の携帯電話等の使用に関する現状と課題」というテーマでワークショップを行いました。

このプロジェクトについては、先日領域担当が、「研究と実務融合による高度情報セキュリティ人材育成プログラム」(ISSスクエア)主催のワークショップ「携帯電話と情報セキュリティ」において、「携帯電話の利用における課題～子どもを取り巻く問題を中心に～」と題して講演し、その中で本プロジェクトの紹介も行いました。

プレゼンの準備をする中で改めて問題の重要性を感じたのですが(まとめることにも必死でしたが)、高校教諭、企業の方々などから質問やコメントをいただき、更にこのプロジェクトの重要性を感じました。近々、領域ウェブサイトにて、プロジェクトメンバーを取材した記事を掲載する予定です。プロジェクトの様子が伺えますので、どうぞご期待下さい。

それでは、最後までお楽しみください。



●選考と新規採択課題について

研究開発プログラム「犯罪からの子どもの安全」として3回目の、そして最後の公募が無事終了し、新たな採択課題が決定しました。

採択課題の詳細はこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/>

「犯罪からの子どもの安全」という重要かつ難しい問題が対象であるにも関わらず、残り3年という限りある期間の中で、科学的視点を持ちながら社会への実装・活用までを視野に入れた研究計画を提案することは、非常に難しかったのではないかと思います。

そんな中、今年度は29件と昨年度を上回るプロジェクト提案がありました。

その中には、見守り機器開発というこの分野ではメジャーなものから、既存のプロジェクトにはない新しい視点のものまで多種多様の提案があり、今年度はこれまでも増して、どの課題が採択されるのか、領域担当の中では予想が難しいとの印象でした。

毎年思うことですが、提案書類を読んでいるのと、実際に面接で話を聞くのとでは、ずいぶん印象が違ふことが多々あります。書類選考では高評価のものが、面接選考ではふるわなかつたり、提案書類の書き方は「う〜〜ん」というものでも、話を聞くと「なるほど」と思うものもあつたりします。

そのため、書類選考の段階で、磨けば光るといふか、重要と思われる提案を落とさないようにする、という視点はいつもあつたように思います。

この領域は、成果の社会への実装・活用までを視野に入れており、単に論文が何本も出ればOKというものとは異なるため、面接選考段階では、代表者の熱い想いやリーダーシップという点が、選考を行うたびに重要性を増してきたようにも思います。

実際に話を聞く機会である面接選考では、提案者、評価者間で白熱した質疑応答が行われ、双方の熱意が感じられました。真夏の暑い盛りでしたが、外の暑さに負けず劣らずの熱い会議室であつたことが思い出されます。

もちろん、面接後の評価者間の議論も然り。当領域のアドバイザーは、研究者から現場の方まで多様な視点を持った方が集まっているので、個々の課題についてあらゆる側面からの評価がなされます。

そうして選出された5課題は、子どもの対人関係能力に注目したもの、演劇を用いた防犯教育、発達障害を有する少年を対象としたもの、電子掲示板記事の監視手法、多機関連携へ向けた提言など、多岐に渡っていて、「犯罪からの子どもの安全」という問題に対するアイデア、視点の多さを改めて実感しました。

その後に行つた領域総括とプロジェクト代表者との個別の面談の中で、面接選考では聞くことのできなかつた、より具体的な構想、イメージを伺うことができ、さらなる熱意を感じ、今後が楽しみになりました。

代表者の方々について、一見すると大学等の研究者が多いように思いますが、元学校の先生や、大学教授でありながらNPOの代表を兼務し、発達障害者の問題にずっと取り組んでこられたので現場のことをよくご存じの方だつたり、大学発のベンチャー企業の役員、劇作家・演出家だつたりと、そのバックグラウンドはバラエティに富んでいます。グループ構成や、協力者なども様々です。

現在は、今後の研究開発の軸となる研究開発計画書の精査を行っている最中ですが、ここはとても大事な段階。中には専門的で難解な内容もありますが、私たちも勉強しながら一緒に進めていくくらいの意気込みを持って担当しています。

代表者の方には何度も修正をお願いしたりしていますが、それは、目標達成に向けていい研究をし、子どもの安全につなげてほしいとのマネジメント側の想いがあるからです。

そのような代表者の方々とのやり取りを通じて、皆さんの個性も少しずつ見えてきました。バックグラウンド同様、個性も豊かな新たな関与者が加わり、「犯罪からの子どもの安全」ネットワークもより多様なものになりつつあります。今年度採択の課題は、既存のものと同様で様々な形で関連する可能性があり、

新規および既存課題の相乗効果でネットワークがより活性化されることを期待したいです。

現場と協働しながら研究開発を進めていくには困難も伴うと思いますが、犯罪からの子どもの安全に寄与する成果の創出に向けて、プロジェクト実施者の皆さんとともに頑張っていきたいと思います。

(領域担当)

2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ

【更新情報】

●国の取組み

平成21年度上半期「インターネット・ホットラインセンター」の運用状況について（警察庁）

<http://www.npa.go.jp/cyber/statics/h21/pdf51.pdf>

平成21年度総合セキュリティ対策会議について（警察庁）

<http://www.npa.go.jp/cyber/csmeeting/index.html>

NO！！児童ポルノ（警察庁）

http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen/no_cp/index.html

第1回警察が設置する街頭防犯カメラシステムに関する研究会について（警察庁）

議事要旨：<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki8/giji.pdf>

議事概要：<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki8/gaiyo.pdf>

配布資料：<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki8/shiryō.pdf>

平成21年度「児童虐待防止推進月間（11月）」の実施等について（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/09/h0928-2.html>

地域で活躍するNPO関係者等との意見交換会の開催について（国土交通省）

http://www.mlit.go.jp/report/press/kokudo10_hh_000002.html

その他の取組みについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

平成21年10月8日 警察政策フォーラム
～地域安全情報の提供・活用の理論と実務～

<http://asss.jp/katudo/bukai/forum20091008.html>

平成21年10月10日 日本自治体危機管理学会 2009年度研究大会

<http://www.jemaweb.org/index.html>

平成21年10月10日 神奈川県青少年問題フォーラム
「ネット時代を生きる若者 ー困難と可能性ー」

http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/02/0230/jigyou/ikusei/h21/youth_for/1_2.html

平成21年10月10日～第46回日本地域学会年次大会
http://jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp/index_jap.html

平成21年10月11日～日本犯罪心理学会 第47回大会
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jacp2/meeting/47/index.html>

平成21年10月16日 日本犯罪社会学会 第6回公開シンポジウム
「薬物犯罪の現状と課題～地域社会における
多機関連携アプローチの取組み」
<http://hansha.daishodai.ac.jp/meeting/index.html#symp>

平成21年10月17日 山本プロジェクトシンポジウム
「犯罪からの子どもの安全を考える in NARA」
<http://www.nara-wu.ac.jp/news/H21news/091017.pdf>

その他のイベントについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【今月の見どころ】

今月の見どころは、調査・レポートに掲載した平成20年度採択プロジェクト企画調査の「終了報告書」及び「事後評価結果報告書」です。

プロジェクト企画調査とは、半年間で企画を具体化するための調査を実施し、次年度に研究開発プロジェクトの提案として応募することを期待する取組みのことです。よって、今年度以降の公募はありません。

昨年度は2件の企画調査が実施されましたが、いずれも今年度それぞれ以下の研究開発プロジェクトとして採択されています。もちろん審査は他の提案と同様に行われました。

- ・ 犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発
- ・ 被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポート・システムの構築

終了報告書には、各調査でどのような取組みを行い、どのような知見が得られたのが記されており、事後評価結果報告書には、それに対するマネジメントグループ側の評価結果が記されています。

これらをご覧くださいことにより、研究開発プロジェクトとして採択されるまでの経緯が垣間見え、取組みがより身近に感じられるかもしれません。

平成20年度採択プロジェクト企画調査の「終了報告書」及び「事後評価結果報告書」
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/reporters/plan.html>

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

- ☆ 1位 「地域の防犯まちづくり活動計画策定推進支援ツールの開発」
企画調査終了報告書
http://anzen-kodomo.jp/reporters/pdf/H19_yamamoto_houkokusyo.pdf
- 2位 「子ども中心の体験型安全教育プログラムの開発」企画調査
終了報告書
http://anzen-kodomo.jp/reporters/pdf/H19_shimizu_houkokusyo.pdf
- 3位 「子どもの感情理解・統御能力の測定と訓練」企画調査終了報告書
http://anzen-kodomo.jp/reporters/pdf/H20_hakoda_houkokusho.pdf

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

- ▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら
<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>
- ▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら
c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2009年10月1日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
